

参加

## 「つながりができ楽しい」

市外から越して来るとき、「区に入らない人もいる」と聞いていたが、この場所で仕事をし生活をするなら、地域のことに関心を持つべきだと思い区へ加入した。最初のころは知り合いもいなかったのですが、河川清掃やお花見、運動会など、地域の人と話ができたり、つながりができたりして楽しい。

三郷 男性(36歳)

参加

## 「一員である自覚」

区のさまざまな活動に参加し、いろんな人と知り合うことで、地域の中に自分がいるという実感があります。また、この土地の一員であるという自覚もあります。分館などの建設のための寄付など大変なこともあります。自分や家族が、その場所ですら暮らししていくのかという事だと思います。

堀金 男性(48歳)

参加

## 「交流が楽しい」

近所の人とのふれあいを大切にしている。交流が楽しいから。

豊科 男性(48歳)

不参加

## 「区の名前もよく分らない」

昼間は市外で働き、夜帰ってくるだけで地域とのかわりがほとんどない。アパートに住んでいるので、自分の住んでいる区の名前すらもよく分らない。自分の家を建てたら地域の役割は考えるかも知れないけれど、いつまでここに居るのか分らないので、区の活動と言われても正直ピンとこない。

三郷 女性(35歳)

不参加

## 「大変な負担」

近所で新しく隣組をつくらないと入れてもらえなかった。転入者にとって、加入する時の入会金が高いことは大変な負担である。加入者にとっても費用、役員が大きな負担となっているのではないかと。組織のスリム化を考えるとできないか。周りの人とかかわりたくないというところは「E」でしかないと思っている。現在の区が環境と防災を目玉にして、そういった活動に加わるよう考えてもらえたらいいと思っている。その分の費用負担は当然する。

穂高 女性(49歳)

参加

## 「環境や福祉の組織づくり必要」

合併と同時に区制になったが、複数の常会が一緒になり、区となったので歩調を合わせて新しい区の体制を整えるのに苦労している。しかし、多くの人が区の活動について大切だと考えてくれていて、活動にも参加してくれている。今後は、地域の環境や福祉などを進める上での組織づくりが必要。

明科 男性(65歳)

参加

## 「役員の選出、難しい」

お互いが自分だけの問題ではない。高齢者のみの世帯が多く、役員を選出しづらくなってきている。最近では、高齢で役員ができないため、隣組には入らないが、区費だけは払いたいという世帯も見られるようになった。

三郷 男性(72歳)

参加

## 「風習であり負担でない」

風習であり負担とは思わない。環境整備やふれあいを大切にしたい。

豊科 女性(50歳)

参加

## 「足が遠のく」

車社会になり、立ち話する機会がなく、普段から交流のきっかけがない。加えて近所の人の名前を覚える機会もないから仲間意識を持ってない。自治体の行事には、近所の親しい人がいないと足が遠のく。一人で行く気はしない。

穂高 女性(55歳)

参加

## 「地域に安心感」

特に抵抗もなく、地域の集まりである区へ加入しています。当然と思っただけです。活動に参加するのは、当然「すぐ」の必要なこともありますが、子どもが参加する活動も多く、子を持つ親として、地域全体で子どもたちを大事に見守っていかうという考えが感じられ、そんな地域に居ることに安心を感じています。

堀金 女性(35歳)

不参加

## 「単身なので必要ない」

アパート単身で必要を感じない。ごみはアパートで対応している。区費については単身者向けの割引があるが、生活に合わせた配慮があると入りやすい。区側に工夫をしてほしい。

豊科 男性(29歳)

参加

## 「当然だと思っている」

区はみんなが入っている、当然だと思って入っていた。区での行事の集まりが悪い。地域にまとまらないように思える。新興住宅の転入してきた人の方が行事への参加がかえって良い。区も女性の役員が増えると良いのではないと思う。副になるとか、だんだんに女性も地域で活躍することが望ましいと考える。

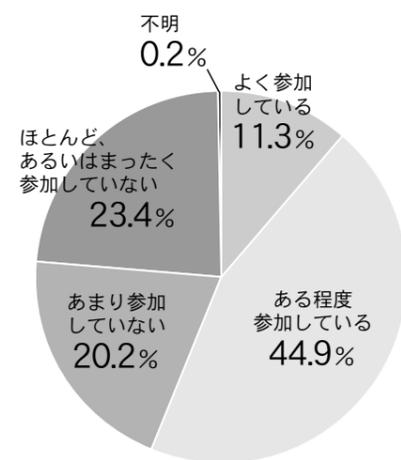
穂高 女性(72歳)

## 特集◎私の自治会論

# 活動に参加していますか？

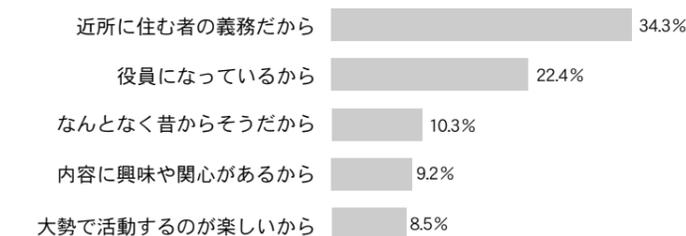
実際に市民の皆さんはどの程度参加し、どのような思いを持っているのでしょうか。意識調査とまちの声をまとめました。

### Q1. 活動にどの程度参加していますか。

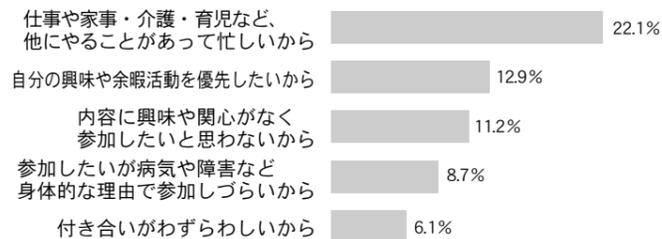


### Q2. 参加している理由、参加していない主な理由は何ですか。(その他の理由を除く上位5つのみ紹介)

#### [参加している]



#### [参加していない]



※上図は「安曇野市の地域福祉に関する調査 平成18年」より作成  
左の声は調査比率、地域別を配慮し聞き取った